

家族の大切さと助け合いを学ぶ

11月25日(月)～29日(金)まで、鶴田町公民館で第10回通学合宿「鶴田にぎりまんま塾」(塾長 十川郁夫 梅沢小学校校長)が開催されました。

今年の合宿には管内の小学校の5、6年生の児童21人が塾生として参加。開講式で十川塾長は「家族の助けはないが、仲間と一緒に助け合って5日間を過ごしてほしい」と述べました。塾生たちは弘前大学教育学部の学生11人、町のジュニアリーダーを含めた延べ28人のスタッフのもと、公民館に宿泊まりしながら食事の調理や洗濯などを行いました。

また、塾生たちは親の手を離れ5日間過ごす共同生活の中で協調性や自主性を磨き、家族の大切さや仲間との助け合いを肌で知る貴重な時間を経験していました。



△塾生たちは食事の調理もスタッフの指導で自らが行いました



あなたの地区の楽しい催しや出来事などを役場総務課まちづくり班までどしどしお知らせください。(22-2111 内線264)

一籠のリンゴを学校給食へ

子どもたちが各家庭からリンゴを持ち寄って学校給食用に提供する「リンゴ一籠運動」が12月6日(金)水元中央小学校(野呂良悦校長)で行われました。

寒空の中、子どもたちは籠に入ったリンゴを持って登校。玄関前に用意された箱に丁寧に詰め替え、ふじや王林など11箱分のリンゴが集まりました。

朝ごはん条例など「食」による健康づくりの推進に取り組んでいる当町では学校給食共同調理所(給食センター)が毎年、児童の保護者や町内のリンゴ農家の皆さんに呼び掛けをして学校給食用にたくさんのリンゴを提供していただいております。

同小2年の須藤稜太くんは「リンゴを持ってくるのは重くて大変だったが、給食でみんなにおいしいリンゴを食べてもらいたい」と話していました。



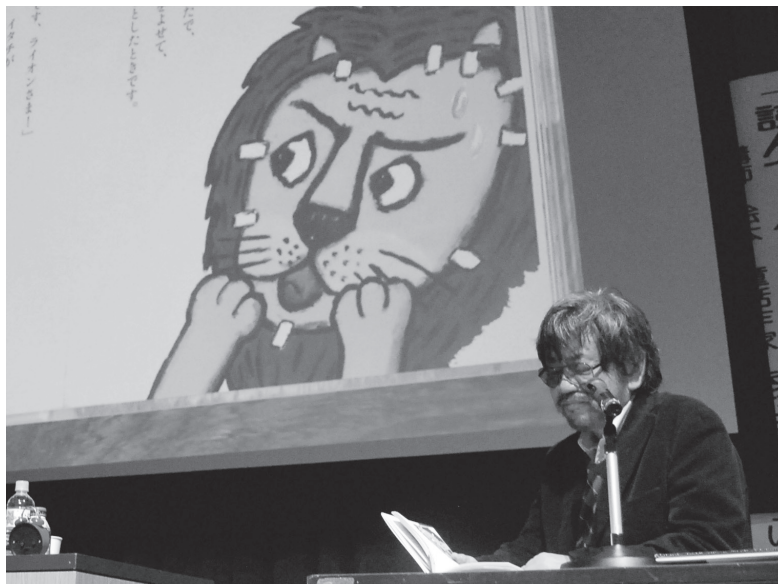
△重そうにリンゴが入った籠を持って登校する子どもたち

読み聞かせを楽しむ

本の読み聞かせを通して親子の絆を深めてもらおうと、12月7日（土）、国際交流会館ホールにおいて「親子で楽しむおはなし会」が開催され、「あかちゃんのアソビえほんシリーズ」や「あらしのよるに」などで著名な絵本・童話作家のきむらゆういちさんが講師として読み聞かせを行いました。

おはなし会には読み聞かせに興味のある親子や町の保育所（園）、幼稚園の園児ら180人が参加。自書「やっとなら」を使いながら行うきむらさんの読み聞かせに、参加した皆さんはじゅくりと聞き入っていました。

このほかにも紙を使ったゲームや、鶴田町読み聞かせ支援隊による津軽富士見湖伝説の版画紙芝居と「あらしのよるに」の読み聞かせが行われました。



△絵本「やっとなら」の読み聞かせをするきむらさん



△参加した皆さんは飲食をしながら交流を楽しんでいました。

鶴田で楽しくつながろう

「鶴田が好き。鶴田に興味がある。鶴田をこれから知ってみたい」と思う方々に鶴田の飲食店を使って楽しくつながってもらう「つるたコネクトパーティー」が12月14日（土）、つるた街プロジェクト（岡詩子代表）主催で行われました。

鶴田温泉で行われたイベントには町内外から24人が参加。同プロジェクトの岡代表は「鶴田になじんでいる人も初めての人も鶴田を楽しんでもらいたい。町の飲食店を盛り上げていく意味でもたくさんの方々に参加してもらいたい」と話しました。

イベントではスチューベンブドウやジャンボやきとりが配布され、参加した皆さんは飲食をしながら互いの近況などを話しつつ交流を深めていました。

新年の五穀豊穡を願い

12月20日（金）、鶴田八幡宮神楽殿において、当町の伝統文化である弥生画を制作する元町弥生会（澤田記成会長）の皆さんを中野町長が激励に訪れ、穀物の貼り付け作業を手伝いました。

18世紀後半の江戸時代まで歴史がさかのぼる当町の弥生画は新年の五穀豊穡を願い、コメやアワなど十数種類の穀物を下絵に合わせて色や形を使い分け、一粒一粒手作業で丁寧に貼り付け絵にしています。深夜まで作業を行った会員の皆さんや作業に協力した町の子どもたちにより、午年にちなんだ今年の弥生画「塞翁が馬」が完成し、同八幡宮に奉納され、正面大鳥居に飾られました。

中野町長も「今年もまた素晴らしい作品を作ってくれた」と弥生画の出来映えに感心していました。



△穀物の貼り付け作業を行う会員の皆さんと中野町長